

## 海岸防災林の類型化と導入樹種の選定並びにクロマツ林の本数密度管理

### [要約]

- ・ 県下の海岸防災林の代表的な類型図を作成し、耐潮性樹種 25 種を選定した。
- ・ クロマツ林分の D - N 関係（平均胸高直径 - h a 当たり本数）による本数密度管理図を作成した。

総合農林試験場・林業部・育林科

専門

林業

対象

環境保全

分類

指導

### [背景・ねらい]

県下各地に海岸防災林が造成され一応の成果を上げているが、中には成林したにもかかわらず様々な要因によってその後の成育が悪く、期待された効果を十分に発揮していない林分がある。又、クロマツ林については、その保育指針が明らかにされておらず、手入れ不良となって諸害に対する抵抗力の低下した林分が多い。

このため、地域の自然条件に適応した海岸林造成管理技術を明らかにすることが要請されている。

### [成果の内容・特徴]

1. 海岸林の現況調査を実施し、その類型化と導入樹種の選定を行った（類型図 - 1 ~ 4・表 - 1）。類型化と目標林型については、地域毎に気象、立地環境が異なり、又、局所的な小地形で、防災林の形態も千差万別となっており、画一的な林型設定が出来ないため、県下の代表的な海岸防災林を基準として類型化を行っている。
2. クロマツ林分の D - N 関係による本数密度管理図を作成した。（図 - 5）  
本数密度管理は平均胸高直径と h a 当たりの生立本数から管理線の 70 % 以下になるようにする事が望ましい。（図の直線は千葉県九十九里浜、黒点は本県林分の調査データである。）

### [成果の活用面と留意点]

1. 耐潮性樹種（25 種）の海岸防災林等への植栽については、立地環境を十分考慮して選定すべきである。
2. クロマツ林の D - N 関係による密度管理については、間伐が一回で 30 % を越す様な場合にはそれ以下とし、漸次段階的に実施すべきである。

この管理図は様々な形態をなしている県下のマツ林への広範で適正な適用を図るため、更に調査点数を増やし、立地・環境条件並びに形状比等の相関を考慮した、地域毎のグループ分けが出来ないか検討を加えて行く必要がある。

[具体的データ]

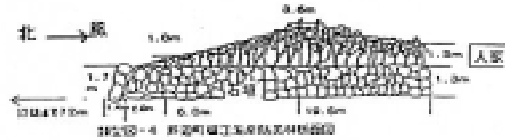
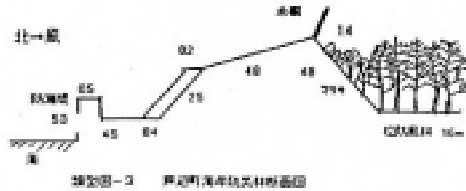
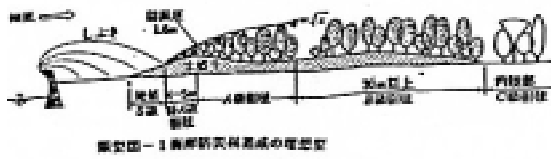
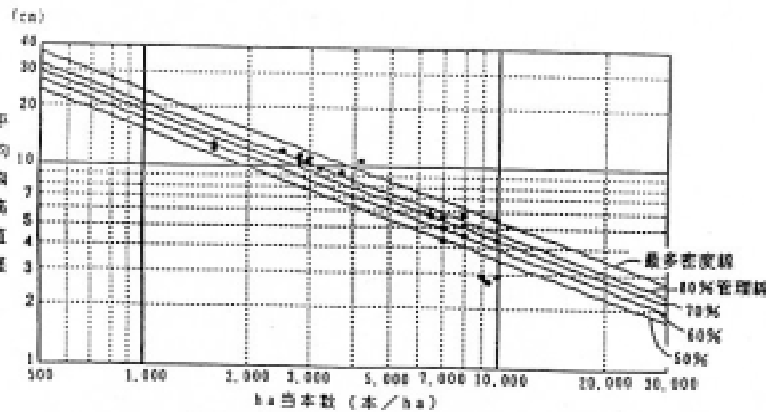


表-1 長崎県の海岸林に多く見られる耐風性樹種

種別	種		樹種数
	耐風性木	非耐風性木	
針葉樹	カラマツ	イヌササ	2
常緑広葉樹	トベウラ、マサキ、シヤブシバ、イ、ハマヒサカキ、ツバキ	ハマヒサカキ、ヤブシバ、サンゴジュ、ヤブヒツケイ、ヤブモモ、タブノキ、オウゴンモモ、シロダモ、ウロコモモ、モミジ、マツノハシ	16
		カシワ、シラカシ、サンキライ、クスノキ、ムクノキ	5
竹	アサギ、ダンアサ		2
計	6	12	20



クロマツ林分のD-N関係 (総合農林試験場調整)  
 曲線(管理線)は千葉県九十九里浜データにより作成  
 凡点は本農林分データ(総合農林試験場調査)である。

図-5 クロマツ林分のD-N関係による本数密度管理図

[その他]

研究課題名：海岸防災林の造成及び保育技術に関する研究

予算区分：県単

研究期間：平成8～12年度

研究担当者：林末敏、石川光弘